

## 役割の変化

副会長 中嶋信生



東日本大震災が起こった後、多くの会員がそれぞれの立場で何ができるか考えたと思います。工学者及び学会のやるべきことは何でしょう？

科学技術、特に工学のこれまでの目標は、人類の幸福や社会の繁栄のための技術革新であり、具体的には産業の振興や利便性の追求でした。

しかし、近年温暖化をきっかけとして地球資源の有限性が認識されるようになり、省エネルギー・資源による「持続社会の実現」が工学の大きな課題となりました。

そして、また一つの大事件をきっかけとして、ふたたび工学は何をなすべきかという命題が我々に突き付けられました。人類の幸福という目標は以前と変わりませんが、そのための具体的課題が大きく変化してきました。これからの科学技術あるいは工学の役割は、「持続社会の実現」に加えて「安全・安心」の実現といえるのではないのでしょうか。

この課題に直接的に関与する学会は、電子情報通信学会ではないかもしれませんが、しかし、どのような工学技術やシステムであれ、情報通信技術なしには存在し得ません。情報通信技術は今や全ての産業において、人体における循環器系のような不可欠の存在になっています。その意味で、本学会も無関係ではられません。

直接関係する分野もあります。震災のときに携帯電話のポケット通信機能を用いた Twitter が活躍しましたが、従来の電話サービスだけだったら通信事情はずっと悪かったでしょう。一方、孤立した地域がたくさん生じて情報が十分相互に伝わらない問題もあり、まだいろいろ課題があると思われます。

「安全・安心」に関する学会には、日本セキュリティ・マネジメント学会、日本リスクマネジメント学会などがあり、また本学会にも安全・安心な生活のための情報通信ネットワーク研究会、安全性研究専門委員会があります。これらのグループと情報通信分野との学際領域で相互に協力すれば、「安全・安心」を情報通信技術で実現するヒントがきっといろいろ発見されるでしょう。研究会や大会で協力活動が活発になされることを期待します。

我が国には、工学の実務経験を積んだ技術者を対象とした「技術士」という国家資格があります。その試験では、知識だけでなく社会的責任の認識や技術者としての倫理観も重視されています。技術の進化に伴ってシステムは巨大化し、問題が生じるとその影響は甚大になってきました。システム運用面での危機管理はもちろん必要ですが、設計・製造・導入段階からも安全性を考慮していくことも不可欠です。「技術で起きた問題は、技術でしか片付けられない」とはある学長の言葉です。技術者の役割は、性能追求だけではありません。社会責任や高い倫理観が求められるのは、技術士だけではないと認識すべきでしょう。

工学に課せられた新たな命題を、これからの研究・教育活動の中で考え、実践していくことが、学会や工学者の「できること」ではないかと考えます。これによって工学技術の重要性が改めて社会に認められ、学会活動の活性化につながっていくことが望まれます。